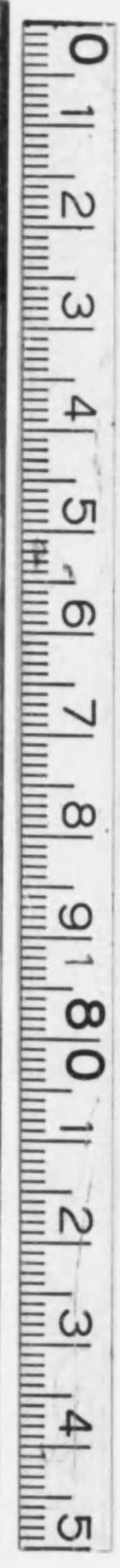


特252  
/93

自昭和八年  
至昭和十二年

經濟更生計畫

新篠津村



始





特252  
133

# 經濟更生計畫目次

## 第一編 緒論

計画樹立ノ方法及經過  
村ノ概況

基本調査ノ結果ニ見タル農業狀況

一、耕地ノ狀況

二、經營ノ大要

三、農業經濟

四、農業教育

計画事項ノ選定

## 第二編 實行計畫

第一章 排水施設ノ完成

第二章 泥炭地客土

第三章 酸性土壤ノ矯正

第四章 防風林ノ造成

第五章 道路ノ改善

第六章 農作物作付配當及耕種肥培方法ノ改善

一一九八六一 一一九八六一 一一九八六一 一一九八六一 一一九八六一





一、作付配當ノ合理化	一一
二、耕種肥培方法ノ改善	一三
1. 地力ノ維持増進	一三
2. 長期輪作式ノ採用	一七
3. 品種改良及優良種子ノ共同生産	一八
4. 病虫害ノ共同防除	一九
5. 優良農具ノ共同備付	二〇
第七章 家畜家禽ノ増殖	二〇
第八章 自作農ノ創設	二四
第九章 農業經濟ノ改善及負債整理	二四
第十章 農業教育ノ振興	三〇

### 第三編 結論

實行計画ノ要約	三一
計画達成後ノ生産額豫想	三六
計画達成上ノ諸施設	三八
一、實行決議	三八
二、機關ノ統一	三八
三、民心ノ統一	三九
四、更生委員會	三九
五、事績共勵會	三九

## 新篠津村經濟更生計畫

### 第一編 緒論

#### 計畫樹立ノ方法及經過

本村ハ豫テ産業計畫樹立ノ要ヲ痛感シ之ガ立案中偶々農業合理化方針及經濟更生計畫樹立方針ヲ公表セラレタルニ依リ之ニ則リ本經濟更生計畫ヲ企圖シ昭和八年二月二十日新篠津村經濟更生委員會規程ヲ公布シ直ニ官公吏各種團體首腦者精農家等二十七名ヲ委員ニ囑託シ基本調査資料ニ基キ數次委員會ヲ開催シ以テ成案ヲ得タルモノナリ

#### 村ノ概況

一、位置地勢  
 本村ハ石狩支廳ノ管轄ニ屬シ篠津原野區劃地ノ一部ニシテ石狩郡ノ東端ニ在リ石狩川ヲ隔テ、空知郡北村ト相對ス地勢全ク平坦ニシテ一ノ丘陵ヲ有セス

二、交通  
 本村ハ鐵道又ハ重要道路ニ惠マレズ高級道路トシテ僅ニ準地方費道カ江別驛ヨリ役場所在地ニ通シ此間乗合自動車ノ便アルノミナリ（自役場至江別行程二十軒）物貨ノ輸出入ハ殆ト石狩川ノ舟運ニ據ル所ニシテ石狩川命令航路其ノ他多數ノ船舶航行シ運賃低廉ナリ冬季結氷時ハ江別驛、幌向驛又



ハ岩見澤驛ニ荷馬棧ヲ以テ物貨ノ搬出入ヲ行フ（行程最近四軒最遠十五軒）

三、人口及職業別戸數（昭和七年末調）

人口 二八二六人

職業別戸數

農業 三八七戸 其他 四〇戸 計 四二七戸

四、土地利用面積

田 二十町八段步 畑 四千二百一町一段步 原野 二百七十七町七段步

基本調査ノ結果ニ見タル農業狀況

一、耕地ノ狀況

耕地ハ之ヲ壤土地帯及泥炭地帯ニ大別スルコトヲ得

1. 壤土地帯

壤土地帯ハ開墾既ニ歳ヲ經テ地力漸ク衰ヘ土質酸性ヲ帯ヒタルモノ甚タ多シ矯正ヲ要ス

2. 泥炭地帯

泥炭地帯ハ排水及客土ヲ以テ改良上ノ二大要締トナシ當業者風ニ自覺奮起スル所アリ今ヤ統制的、共同的ノ施業ヲ督勵スル時期ニ際會セリ

二、經營ノ大要

1. 經營ノ種別

耕地ハ大約四千町步ナルモ内水田ハ僅々二十數町步ニ過キスシテ純然タル主穀畑作農經營ナリ

將來亦此ノ經營方針ヲ有利トスルニ衆口一致ス

2. 自作、小作

現在自作農ハ二割一分、自作兼小作農ハ四割五分、小作農ハ三割四分ヲ算ス  
自作兼小作農業者中ニハ堤防敷地其他ノ官有地ノ使用ニ依リテ此ノ分類ニ入ルモノ多數アリ此レ事情止ムヲ得サル現象ナレトモ小作農ハ適當ノ誘導ニ依リテ將來大ニ之ヲ減スルコトヲ得ヘシ

3. 耕地ノ分配

耕地ノ分配ハ五町步未満ノ者一割（主トシテ副業農）五町步以上十町步未満ノ者三割一分、十町步以上ノ者五割九分ヲ算ス（二十町以上ハ極メテ少シ）

十町步以上ノ耕作ハ配當過大ノ感アルモ由來本村ハ大家族主義ノ傾向アリ且ツ地勢及作物ノ狀況ハ機械力應用ノ餘地多キニ鑑ミ大体妥當ノ分配ナリ

4. 作付ノ配當

各種作物作付ノ配當ハ燕麥五割、小豆三割、其他二割ノ現状ナリ地質ノ關係上作物ノ種類ヲ限定セラル、コト多シト雖モ尙燕麥、小豆偏作ノ誘アルヲ免レズ

5. 施肥ノ狀況

施肥ハ一般ニ不充分ナリ就中堆肥及過磷酸ノ施用ハ甚タ寡少ナルヲ見ル  
イ、堆肥

堆肥ハ近時頓ニ増産ヲ見ツ、アルモ尙反當施用量ハ百二三十貫ナルニ過キス

ロ、過磷酸石灰



過磷酸石灰ハ地味地質ノ狀況反當六七貫ヲ要求スルニ拘ハラズ現在施用量ハ其六割程度ナリ  
輪作關係

6. 燕麥小豆偏作ノ結果ハ自ラ連作ノ弊ヲ免レス作付配當ノ合理化ト相俟ツテ改善ヲ要ス  
7. 農具ノ狀況

本村農家ハ一戸當平均十一町歩ヲ耕作スルヲ以テ相當機械的農具ノ普及ヲ要スルニ拘ハラズ現  
在殆ト見ルベキモノナキヲ遺憾トス隨テ農業勞働者ノ雇傭鮮少ナラザルモノアリ

8. 被害防除

イ、風水害

農作物ノ風害ハ數字のニ之ヲ知ルヲ得サルモ夏季ハ恒ニ南風強烈ニシテ蒔付期發芽期ノ如キ  
ハ表土ヲ飛散セシメ堆高ク排水溝ヲ填滅スルノ事實ヲ見ル等ニ鑑ミ其被害甚大ナルヲ想フヘ  
シ耕地防風林ノ造成ハ甚タ急務ナリ

水害ハ本村農業經營上ノ根本的禍根ナルモ茲ニ之ヲ論セス

ロ、病虫害

病虫害ノ防除ハ甜菜耕作者ヲ除キテハ全ク無關心無施設ナリ覺醒ヲ要ス

9. 家畜、家禽

イ、馬

馬ハ一戸當二頭四分ヲ飼養シ且個々ニ就キテ之ヲ見ルモ經營地積ニ相當シ居リテ普及狀況大  
体適當ナリ

ロ、牛

牛ハ飼養戸數僅カニ六戸頭數十六頭ニシテ見ルニ足ラス

ハ、鶏

鶏ハ飼育戸數ニ於テ總農家ノ八割ヲ算シ羽數モ亦一戸當リ四十羽ニ達スルモ專業的ノ大量飼  
育者ヲ除クトキハ一戸當リ遙ニ減少ス

ニ、其他小動物

其他小動物ハ少數ノ者カ好事的ニ飼育スルニ止マリ殆ト見ルニ足ラス

### 三、農業經濟

1. 生産物販賣

生産物販賣ハ從來全ク無統制ナリシモ即今産業組合ニ於テ之カ統制ヲ企画シツ・アリ

2. 物資ノ購入

購入物資ハ大部分産業組合ニ於テ統制サレ居レルモ尙相當ニ一般商人ノ介在ヲ見ル

3. 物資ノ運輸

物資ノ移出入ハ大部分石狩川ノ舟運(冬季ハ馬棧)ヲ利用シ多ク不便利ヲ見サレトモ將來ハ  
時代ノ要求又ハ生産物ノ種類ニ依リトラツク運輸ヲ考慮スルノ要アリトス

4. 産業組合

農村經濟ノ中心ハ産業組合ニ在ルコト論ヲ俟タヌ本村産業組合ハ最近群小組合ヲ統一シテ一村  
一組合ノ理想ニ達シ内容亦高速度ノ發達ヲ見ツ・アルモ尙精細ニ檢討スルトキハ信用部、購買  
部ノ充實ニ比シ販賣部、利用部ノ末タ甚タ至ラサルモノアルヲ見ル  
5. 負債



負債ハ一戸當リ一千五百圓ニ達シ之カ償還ニ目標ナキモノ多シ大手術的整理ヲ要ス

四、農業教育  
農業教育ノ機關殆ト備ハラサルハ從來ノ農業經營ニ多大ノ欠陥アル根本原因ナリ適當ノ施設ヲ要ス

### 計畫事項ノ選定

計畫事項ノ選定ハ叙上ノ實況ニ鑑ミ實行可能性ヲ基調トシ委員會ノ決議ヲ經テ最モ適切且緊急ナル事項ヲ選定セリ其ノ大綱ヲ掲クレハ左ノ如シ

- 一、耕地ノ改良
- 一、道路ノ完備
- 一、防風林造成
- 一、自作農ノ創設
- 一、農業經營方法ノ改善
- 一、農業經濟ノ改善並負債整理
- 一、産業教育振興

## 第二編 實行計畫

### 第一章 排水施設ノ完成

排水施設ノ完成ハ土地改良上最モ重要事項ニ屬スルヲ以テ左記方法ニ依リ之カ完成ヲ計ルモノトス

#### 一、基本排水施設

##### 1. 運河ノ改修

運河ノ改修ハ既ニ拓殖費ニ依リ進工ヲ見ツ、アリ兩三年ニシテ完成ヲ見ルベシト雖モ之カ速成ニ一層ノ努力ヲ拂フモノトス

##### 2. 篠津川ノ改修

篠津川ノ改修モ運河ト共ニ國費事業ニ俟ツノ外ナキヲ以テ極力其筋一之ヲ要望シ五ヶ年内ニ實現ヲ期ス

#### 二、中排水溝

中排水溝ハ既ニ從來ノ施設ト昭和六七年度ニ於ケル約二万間ノ改修ニ依リ大体完成ヲ告ケ爾余ノ必要部分ハ僅少ナレハ昭和八、九年度ニ於テ村費ヲ以テ之カ完成ヲ計ルモノトス（施行個所別紙圖示ノ通り）

### 中排水溝新設年次表

要新設延長	昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	成功率
一一、八八〇 <small>間</small>	七、五八〇	四、三〇〇	—	—	—	—
						100%

#### 三、小排水溝

##### 1. 農事實行組合ニ於テ新設

農事實行組合ハ夫々小排水網ヲ設定シ共同作業ニ依リ之ヲ施工シ五ヶ年内ニ完成ヲ計ルモノトス



四、既設排水溝ノ維持

1. 中小排水

イ、排水デー

ロ、組合相互ノ連携

ハ、共勵會共勵事項ニ推薦

2. 大排水

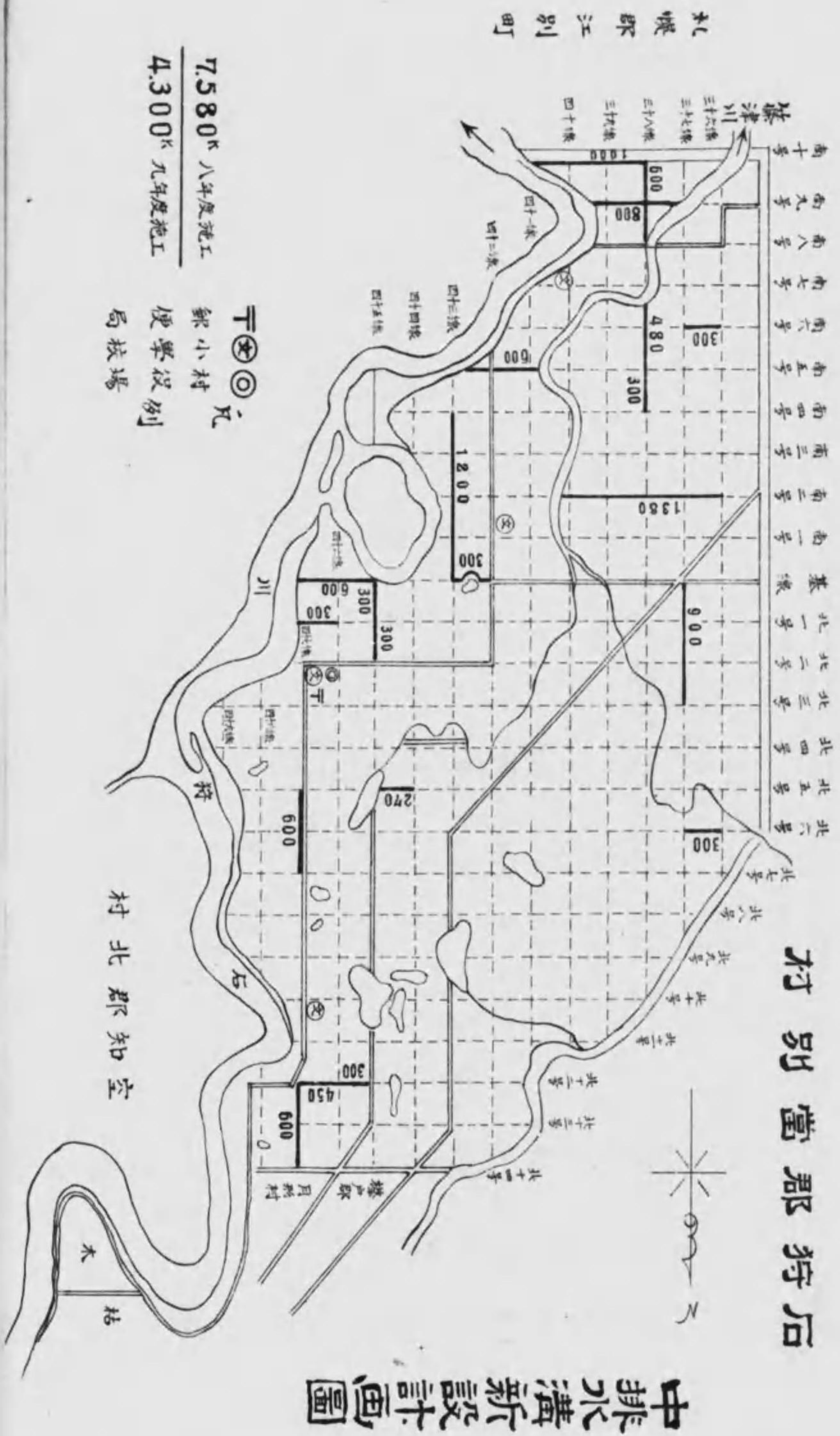
第二章 泥炭地客土

各農事實行組合ハ受持區域ヲ定メ左記實施要領ニ依リ之カ維持作業ヲ行フモノトス  
 毎年六月排水デーヲ定メ組合員總動員ニ依リ維持作業ヲ行フ  
 他ノ組合ト提携ヲ要スル個所又ハ數組合共同出役ヲ要スル箇所ハ關係組合ノ連携ヲ計ル  
 本項ハ農事實行組合共勵會ノ共勵項目トナス  
 大排水ノ維持ハ村費ヨリ相當助成金ヲ交付シ關係組合ト協力シテ之ヲ行フ(大排水ハ村會ノ認定ニ依リ之ヲ定ム其他ハ中小排水ト看做ス)  
 客土ハ泥炭地改良上須要事項ナルニ依リ左記方法ニ依リ之カ普及ヲ計ルモノトス

一、施業年次表

要 面	施 業 積 業	面 積 積 業	昭 和 八 年	昭 和 九 年	昭 和 十 年	昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	成 功 率
11000	3500	2500	2500	2500	2500	2500	2500	80%

石狩郡當別村



札幌江別町

7.580<sup>千</sup> 八年度施工  
 4.300<sup>千</sup> 九年度施工

干田  
 小村  
 便學校  
 別  
 局校場

中排水新設計画圖



二、土取場ノ選定及斜旋

第三章 酸性土壤ノ矯正

一、施業年次表

面積	矯正	第一年次	第二年次	第三年次	第四年次	第五年次	成	功	率
1,000	100	100	100	100	100	100	%	100	0

二、矯正方法ノ指導

三、石灰ノ共同購入

第四章 防風林造成

一、造成區域

二、造成方法

1. 實行主体

2. 仕立方法

各農事實行組合ノ選定ニ依リ村ハ之カ出願又ハ買收ニ  
關スル斡旋ヲ行フ

酸性土壤ノ矯正ハ地力復舊上須要ノ事項ナルニ依リ左  
記方法ニ依リ之カ勵行ヲ期ス

農會ニ於テ酸度測定用具ヲ備付ケ調査ノ上石灰施用量  
ヲ指示シ矯正方法ヲ指導ス

産業組合ニ於テハ石灰ノ共同購入ニ關スル斡旋ヲ行フ  
本村ハ全村平原地ニシテ常ニ風力強ク爲ニ蒙ル各種被  
害鮮少ナラス故ニ防風林ノ造成ハ刻下ノ急務ナリ

全村

苗木ノ供給  
植栽及手入

村農事實行組合

喬木式



3. 樹種
4. 樹間
5. 間隔
6. 植栽延長
7. 數量(本數)
8. 方向

ポプラ、トリーヒ、ヤチタモ、ネグンドカヘデ  
三尺幅、六尺置、三列千鳥植  
三百間置  
三万間(別紙圖示ノ通)  
間口三本合計九万本  
東西(夏季 恒風、正南)

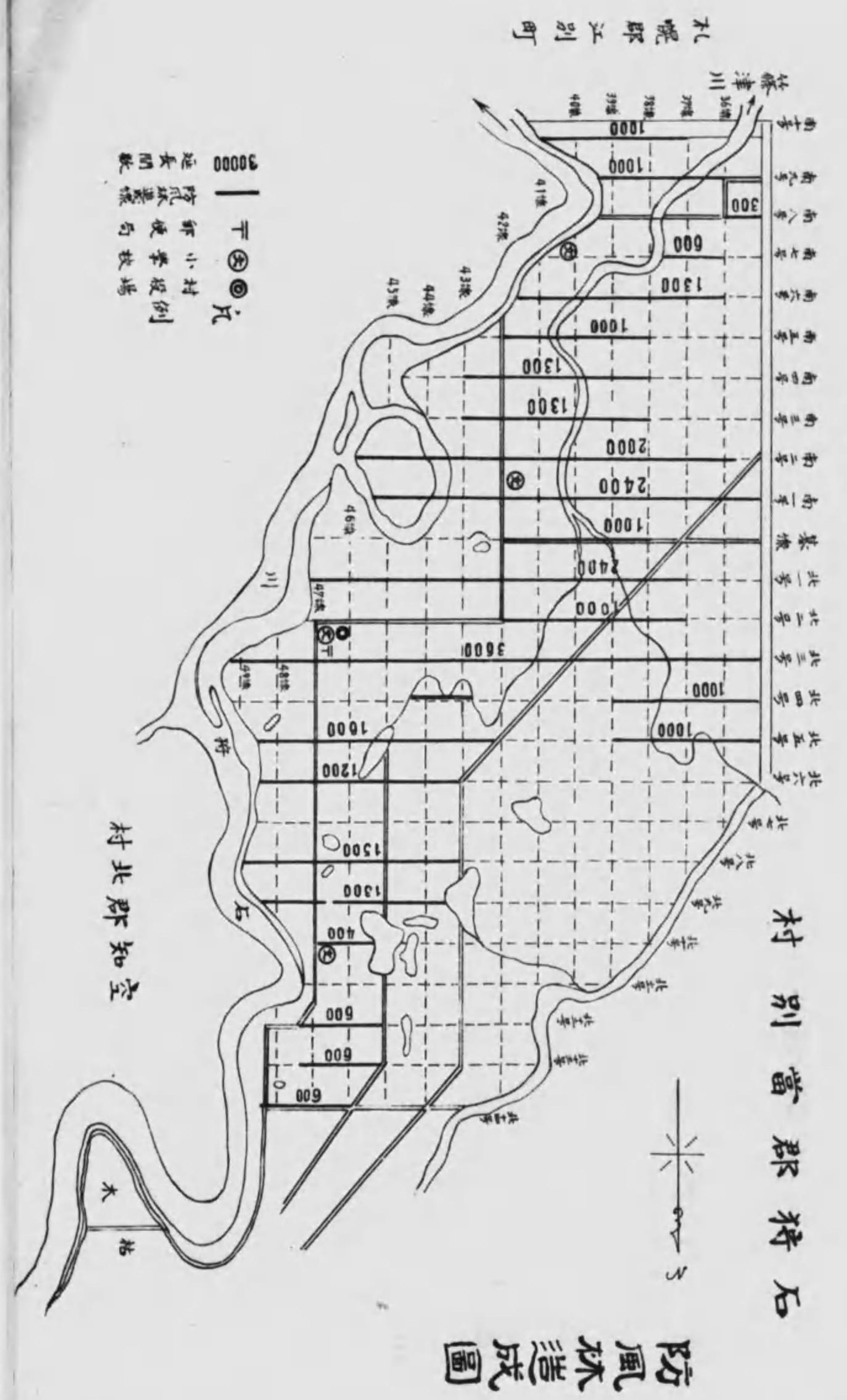
三、植栽年次表

昭和八年	昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	備考
三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	第二次計畫		
補	植	補	植	補	植
昭和十年植					補植ハ計畫本數ノ外トス
苗木養成					

四、植栽及管理

1. 植栽
2. 管理
3. 共勵會共勵事項ニ推薦

各農事實行組合ハ村ヨリ苗木配給ヲ受ケルト共ニ組合員總動員ヲ以テ直ニ植付ヲナスモノトス  
植栽後ハ青年團ト協力其手入及ビ保護ヲ充分ニスルモノトス  
植栽及管理ハ農事實行組合共勵會ノ共勵項目トナス

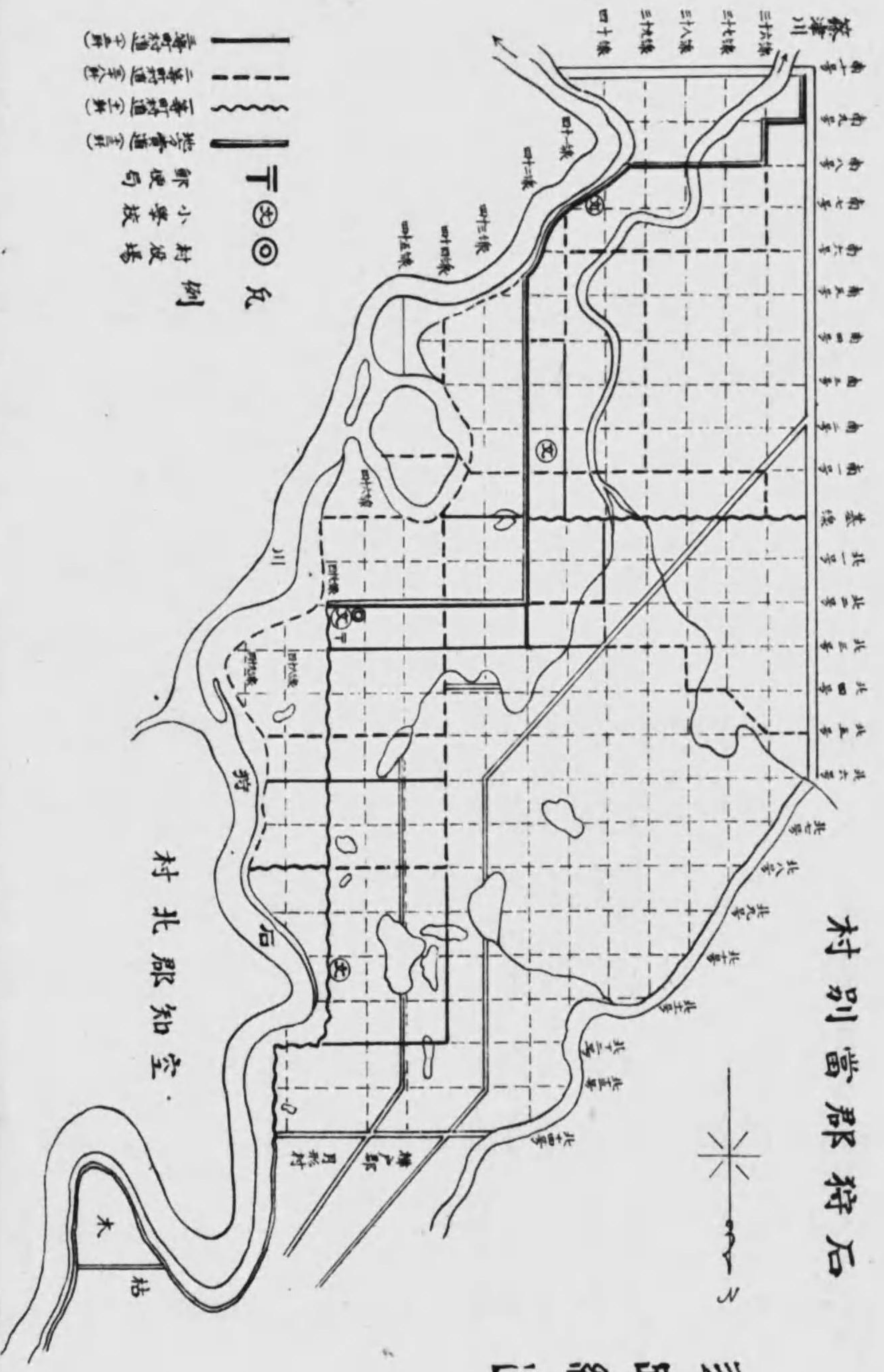






道路網圖

石狩郡當別村



- 例
- 村役場
  - ⊙ 小学校
  - 〒 郵便局
  - 主要道路(全線)
  - - - 主要道路(新)
  - ~~~~ 主要道路(新)
  - |||| 主要道路(全線)
  - |||| 主要道路(新)

札幌江別町

狩石川

空知郡北村



## 第五章 道路ノ改善

### 一、關門道路ノ改善

交通機關ニ惠マレサル本村ノ道路改善ハ當面ノ急務ナリ  
準地方費道ナルヲ以テ之カ改善ヲ其筋ヘ切ニ要望シ併  
テ村民勞力ニ依リカメテ改善シ積雪期外ハトラツクノ  
運行ニ妨ケナカラシムルヲ目標トス

### 二、村内自動車道路網ノ完成

村内各部落ヲ連絡スル道路ヲ自動車道路ト定メ全線ト  
ラツクノ運行ニ耐ヘシムルヲ目標トス(別紙圖示ノ通)

### 三、道路維持費ノ分担

村内全道路線ヲ三等ニ分チ一等ハ村費支辨二等ハ橋梁  
費ヲ村費支辨三等ハ橋梁用材料ヲ村費支辨トシ其他費  
用ハ實行組合ノ勞力奉仕ニ依ルモノトス(等級別道路  
線別紙圖示ノ通)

## 第六章

### 農作物ノ作付配當及耕種肥 培方法ノ改善

#### 一、作付配當ノ合理化

##### 1. 標準表ノ設定

本村ノ主要作物ハ從來燕麥及ビ小豆ノ二種ニ限ラレ其  
他ハ殆ト舉クルニ足ラス仍テ主作物ノ種類ヲ多クシ作  
柄ノ豊凶及價格ノ高低ニ對スル危險性ヲ防除シ併テ自  
給自足ノ根本原則ニ依據スルノ要アリ即販賣作物自家  
用作物持産物ノ各方面ヨリ觀察シ左ノ如キ作付配當標  
準表ヲ得タリ







堆肥反當生産進度目標

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	備考
一六〇	二〇〇	二四〇	二七〇	三〇〇	耕地三分ノニニ對シ	

完全堆肥場設置進度目標

要設置數	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
三八七	一〇八	一五八	二〇八	二五八	三〇八	三五八	%
							九〇

(一) 緑肥

緑肥ハ耕地ノ三分ノ一ニ利用スルヲ目標トシ左記方法ニ依リ之カ實現ヲ期ス

(2) 種子自給

種子ノ自給ヲ計ル爲農家各戸ニクロバ一採種圃ヲ設置ス(但シ一戸一反歩限リ)

(3) 普及進度目標

採種圃用ノクロバ一種子ハ村又ハ農會ヨリ無償配付ス(但シ一戸一反歩限リ) 鋤込用緑肥ノ種子不足ノ爲移入スルノ止ムナキモノニ對シテハ其購入費ニ對シ村費又ハ農會費ヨリ相當ノ補助金ヲ交付ス

採種圃面積	所要面積	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
一三〇〇〇反	六五〇〇反	四七二反	一〇〇〇〇反	二〇〇〇〇反	三〇〇〇〇反	四三〇〇〇反	六五〇〇〇反	%
								五六二

(三) 共勵會共勵事項ニ推薦

ロ、鶏糞ノ利用

推肥緑肥ノ成績ハ農事實行組合共勵會ノ共勵項目トナス 副業養鶏ノ普及ト關聯シテ鶏糞ノ活用ヲ計ラシカ爲農事實行組合ハ適當申合ヲ行ヒテ鶏糞ノ採取ニ努ムルモノトス

鶏糞利用進度目標

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	備考
五〇	一〇〇	一五〇	二〇〇	三〇〇	三五〇	一戸當利用高

ハ、深耕秋耕ノ勵行

- (一) 緑肥栽培地秋耕
- (二) 實驗地ノ設定
- (三) 深耕犁普及

深耕及秋耕ニ付テハ從來兎角誤解又ハ閑却セラレ居ルモ地力ノ維持増進上忽ニスヘカラサル事項トス仍テ左記ニ依リ之カ勵行ヲ期ス 緑肥栽培利用地ハ必ず秋耕ヲ行フモノトス 各農事實行組合ニ於テハ秋耕深耕實驗地ヲ設ケ實地研究ヲ爲ス(特志農家ニ委託) 深耕獎勵ノ爲左記進度目標ニ依リ深耕犁普及ヲ計ルモノトス

深耕犁普及進度目標

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	備考
四	八〇	一六〇	二四〇	三二〇	四〇〇	







標準輪作式

帶地炭泥	帶地土壤
小豆	小豆
燕麥	燕麥
麥	麥
後播ク 作分ノ バハ	菜 播ク 分ノ 一
ソライ マ	大菜 豆
小豆	小豆
混ク ロバ 播	燕 豆
デ大 ント コ ン	混ク ロバ 播
小玉 蜀 豆	大ソ 豆
燕麥	デ馬 ン ト 鈴 豆
麥	玉 鈴 豆

備考

一、右ハ本村農作物付標準表ニ基キ地帯別ニ輪作式標準ヲ示セルモノナリ  
 一、本表ハ各地帯毎ノ耕地面積ヲ十等分シ其九ヲ以テ巡環輪作地ニ充テ他ノ一區劃ニ果樹其他ノ固定作物ヲ栽培スルモノトシテ作成セリ  
 一、本表ニ依レバ綠肥作物混播可能地ハ%十五ニシテ經營地ノ三分ノ一ニ充タス仍テ當分鶏糞ノ施用ニ依リテ之ヲ補フベシ將來ハ休閑地ノ設定根菜類ノ作付反別増加等ニ依リ綠肥作物混播可能地ノ増加ヲ計ルヲ要ス

3. 品種改良及優良種子ノ共同生産  
 イ、共同採種圃ノ設置

品種ノ改善及優良種子ノ普及ハ各農事實行組合カ共同採種圃ヲ設置シテ組合員各戸ニ其種子ヲ供給スルヲ以テ最モ捷徑トス而シテ共同採種圃ノ經營ニ對シテハ農會ヨリ相當補助金ヲ交付スルモノトス

共同採種圃進度目標

所要反別	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
七〇〇反	一〇〇反	三〇〇	四〇〇	五〇〇	六〇〇	七〇〇	% 一〇〇

ロ、優良品種ノ選定

本村ニ於テ適當ト認ムル各作物ノ優良品種ヲ別表ノ通り選定ス

4. 病虫害ノ共同防除

病虫害ノ防除ハ從來極メテ疎閑ニ流レタルヲ遺憾トス仍テ左記方法ニ依リ實行組合ヲ單位トシ協力一致シテ之カ防除ノ徹底ヲ期ス

イ、器具ノ備付

各農事實行組合ニ噴霧器ヲ六戸一台ノ割合ヲ以テ速ニ備付クルコト村又ハ農會ハ前記代金ノ五割ヲ補助スルモノトス

噴霧器備付進度目標

所要數量	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
六五	一五	三〇	四〇	五〇	六〇	六五	% 一〇〇

ロ、藥品ノ配給

防除用藥品ハ各農事實行組合ニ於テ所要量ヲ取纏メ農會ニ於テ購入ノ斡旋ヲナスコト(農會ヨリ全部又ハ一部ノ無償交付ヲナスコトアルベシ)

ハ、防除デー

毎年防除デーヲ定メ一齊防除ヲ行フコト







ハ、實地指導

- 2. 國有種牡馬種付所ノ開設及牝馬検査ノ施行

方面毎ニ講話會ヲ開キ又ハ實地ニ就キテ飼養管理方法ノ指導或ハ畜舎改善ノ督勵等ヲ行フモノトス

- 3. 臨時家畜市場ノ開設

村内ニ國有種牡馬種付所ノ開設ヲ其筋ニ請願シ五ヶ年内ニ目的ヲ達成スルコト  
 國有種牡馬ノ種付牝馬検査ヲ村内ニ於テ實施方請願シ昭和九年度ヨリ實現ヲ期スルコト  
 畜産組合ニ折衝シ毎年十月下旬乃至十二月上旬村内ニ臨時家畜市場ノ開設ヲ乞ヒ村産馬ノ紹介ニカムルコト

馬飼養ノ現況

無飼養	一頭	二頭	三頭又ハ四頭	五頭以上
三五戸	九三	一四〇	一〇二	一六

備考

無飼養農家三十一戸ハ極貧者ナルヲ以テ負債整理ノ實施ニ際シ併テ考慮シ五年後ニハ全農家ニ飼養セシムルモノトス

三、家禽其他小動物ノ増殖

- 1. 鶏
- イ、種類ノ選定

種類ハ白色レグホン、黄斑ブリマスロツクヲ適當トス

ロ、増殖進度目標

飼養戸數	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十一年	十二年
無飼養	八	九	九	九	九	九	九
十羽以上	一	一	一	一	一	一	一
五十羽以上	二	二	二	二	二	二	二
八十羽以上	三	三	三	三	三	三	三
計	一六〇	一七〇	一八〇	一九〇	二〇〇	二一〇	二二〇

ハ、飼養標準

一戸當リ成禽二十羽乃至八十羽ヲ標準トシテ全農家ニ普及スルコト

2. 其ノ他小動物

- イ、普及ノ種類及方法
- ロ、増殖進度目標

鶏以外ノ小動物ハ兔、緬羊、豚、蜜蜂ヲ獎勵種目トシ各農事實行組合ノ甲合ヲ以テ其ノ一種類又ハ二種類ヲ選定シ組合區域ヲ單位トシテ飼育スルコト

豚	緬羊	兔	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年
飼養戸數	飼養戸數	飼養戸數						
二〇	一〇	一五〇		四〇	六〇	八〇	一〇〇	一二〇
二四	一三	一八〇		一五	二五	三〇	四〇	四五
二〇	一〇	一五〇		一一〇	一四〇	一六〇	一八〇	二〇〇
%	%	%		%	%	%	%	%
三〇	一二	五二						



養蜂	養蜂戸數	二一	三〇	四〇	五〇	六〇	七〇	一八
養蠶	養蠶函數	一〇六						

ハ、共勵會共勵事項ニ推薦

第八章 自作農ノ創設

本項ハ農事實行組合共勵會ノ共勵項目トナス  
 本村ハ現在小作農ノ數自作農ニ比シ多キヲ遺憾トス之  
 ヲ轉向シテ漸次小作農ノ數ヲ減シ住民士着心ノ養成ニ  
 努ムルモノトス  
 自作農創設維持制度ノ活用

一、方法

二、創設ノ進度目標

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年
自作農	一一七八一	一一七八一	一一七〇一	一一七二一	一一七四一
小作農	一三二四	一三二四	一三二四	一三二四	一三二四
合計	一三二四	一三二四	一三二四	一三二四	一三二四

第九章 農業經濟ノ改善並負債整理

農業經濟ノ改善ハ一ニ産業組合ノ活動ニ俟ツヲ捷路ト  
 ス依テ左記方案ニ依リ組合ノ擴充ヲ計ルモノトス

一、産業組合ノ擴充

1. 擴充計画ノ進度目標

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年
組合員數	三六〇	三七〇	三八〇	三六六	三九〇
出口數	一、一〇〇	一、一五〇	一、二〇〇	一、四〇〇	一、六〇〇
加入率百%				加入率百%	加入率百%
				一〇五	一〇五

農事實行組合加入數	組合	一六	一七	一七	加入率百%
貯金	一五、一〇〇	一五、七二五	一〇五、五八〇	一一五、三三三	一〇〇、〇〇〇
購買品賣却高	八五、〇〇〇	九三、八〇〇	一〇三、〇〇〇	一一三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
主生産品販賣高	八二、〇〇八	九三、八〇〇	一〇三、〇〇〇	一一三、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇
準備金積立金	八、三三二	一四、五三七	一九、〇三五	二五、八三〇	三五、四〇〇

2. 擴充計画達成上ノ諸案

イ、出資ノ増加

出資ノ拂込ヲ完了シタル組合員ハ必ス更ニ一口ノ持口  
 増加ヲ爲シ一人當リ平均四口ヲ下ラサル様ニス(現在  
 三口)

ロ、農事實行組合ノ加入

農事實行組合ハ必ス組合ニ加入シ實行組合員十人ニ一  
 口ノ割合ヲ以テ出資ヲ爲スコトトス

ハ、剰余金處分ノ方針

組合ハ毎年度ノ剰余金ヨリ準備金ヲ除キタル額ヲ折半  
 シテ特別積立金及配當金ニ充ツルヲ以テ剰余金處分ノ  
 方針トス

ニ、生産物ノ販賣統制

販賣農産物ハ一切之ヲ組合ニ於テ取扱フコトトス  
 副業生産物ニ在リテモ損益多寡ニ拘ハラズ一切組合ニ  
 於テ販賣ノ取次ヲ爲スコトトス

ホ、利用部設備ノ完成

- (一) 雜穀調製所
- (二) 精粉精穀所

販賣ノ統制ニ伴ヒ施設ノ絶對性ヲ有ス  
 購買部ノ擴充ニ伴ヒ必要ヲ認ム



同上

販賣購買兩事業ノ擴充ニ伴フ必要施設ナリ  
農村經濟ノ組合中心主義ニ伴フ必要施設ナリ

第四部落ニ一ヶ所ヲ増設シ購買品配給ノ圓滑ヲ計ルモノトス

農具ハ從來多ク之ヲ扱ハサリシモ今後一切ノ農具ヲ取扱フコトトス

組合員ノ家族ニ一人必ス一冊ノ貯金帳ヲ所有セシムルヲ目標トシテ貯金ノ勸奨ヲ爲スモノトス

組合員ノ家ニ出生兒アリタルトキハ組合ヨリ金參拾錢ノ貯金帳ヲ贈リ家族貯金ノ獎勵ニ資ス

別項參照

農業倉庫ノ經營ハ生産物ノ販賣統制ニ伴フ必然ノ施設ナリ

産業組合ノ擴充計畫ト表裏相離ルヘカラサルハ組合員一同ノ組合精神ノ遵奉ナリ組合員ハ一致結束シテ組合

(三) 肥料配合所

(四) 貨物自動車

(五) 裝蹄所及獸醫

ハ、購買部施設ノ完成

(一) 配給所ノ増設

(二) 農具ノ販賣

ト、信用部事業ノ擴張

(一) 貯金ノ勸奨

(1) 家族貯金

(2) 備荒貯金

チ、農業倉庫ノ經營

二、産業組合ノ完全利用

1. 全農家ノ組合加入

2. 男女青年團ノ組合運動參加

三、備荒貯金

1. 貯蓄ノ方法

2. 管理ノ方法

3. 備荒貯蓄進度目標

利元	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	備考
計	一九五〇	三九〇〇	五八五〇	七八〇〇	九七五〇	
子金	一九五〇	三九九七	六二九六	八四〇三	一〇七二三	年五分複利 一戸當二十七圓五十錢

ノ全的利用ニ邁進スルモノトス

村内ノ農家ハ一戸殘ラス組合ニ加入スルモノトス(組合亦之ヲ拒マサルモノトス)

男女青年團ハ進取ノ精神激濁ノ意氣ヲ基調トシテ充分ニ組合ノ精神ヲ理解シ以テ組合員一同カ組合ノ徹底的利用ニ努ムル様画策シテ倦マサルモノトス

各農事實行組合ノ決議ニ基キ組合員ハ毎年ノ收穫穀物中ヨリ作付地一反歩當リ一升以上ヲ天引シ備荒貯蓄ヲ行フモノトス(品質上位ノモノ)

農事實行組合ハ之ヲ取纏メ産業組合ニ預入シ(各人ノ持分ヲ明カニス)必要止ムヲ得サル凶作年ニ於テ之ヲ拂戻スモノトス

産業組合ハ前項ノ預金ノ可及的高利ニ預リ金ハ凶作時ノ拂戻シニ支障ヲ來サル様別段ノ管理方法ヲ以テ管理スルモノトス



四、味噌醬油ノ全量自給

4. 共勵會共勵事項ニ推薦
1. 製造方法ノ指導
2. 器具共同設備
3. 原料ノ自給
4. 自給ノ進度目標

本項ハ農事實行組合共勵會ノ共勵項目トナス  
味噌醬油ノ自給自足ハ容易且適切ノ事項ナリ左記ニ依  
リ之カ實現ヲ期スルモノトス  
農會技術員之ヲ擔任シ各農事實行組合單位ニ實地指導  
ヲ行フコト  
器具ハ農會ニ於テ備ヘ之ヲ各實行組合ニ貸付スルコト  
但シ充分ナルヲ得サルヘキニ依リ可及的實行組合ニ於  
テ之ヲ備ヘ組合員ノ共同使用ニ供スルコト  
所要ノ原料(大豆及小麥又ハライ麥)ハ必ス自給スル  
コト

味噌醬油	現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	備考
	%	二六〇	四八〇	一六〇〇	一八〇〇	一〇〇〇	消費高ニ對スル自給割合ヲ示ス同上

五、農業簿記ノ普及

1. 簿記帳ノ無償配付
2. 記帳ノ勵行

農會ニ於テ各農家ニ一定様式ノ簿記帳ヲ無償配付ス  
各農事實行組合ニ於テハ左記ニ依リ記帳ノ指導及督勵  
ヲ行フモノトス

イ、簿記係ノ設置

各農事實行組合ニ之ヲ置キ記帳ノ指導督勵ヲ爲ス  
實行組合内ニ於ケル共勵事項ニ加ヘ適當ノ彰表方法ヲ  
設クルコト

ハ、青年團員ノ共勵

青年團員アル家庭ニテハ卒先記帳ノ範ヲ垂ル、コト

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
八〇%	一一〇	一六〇	二〇〇	二五〇	三〇〇	%
備考	一定様式ノ範圍ニ於テ完全ナル記帳ヲ爲スモノ、數ヲ示ス					

六、負債整理

1. 實行主体
2. 方法

負債整理ハ負債整理組合ニ於テ之ヲ實施スルコト  
村内ニ負債整理組合四組合ヲ設立シテ組合員ノ負債整  
理ヲ行フモノトス

要整理戸數	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年	成功率
一〇二	一〇	二〇	三〇	四〇	五一	%
三	整理進度目標					



七、無盡ノ淘汰

1. 無盡ノ組織廢止
2. 既設無盡ノ經費節約

第十章 産業教育ノ振興

- 一、農業補習學校ノ設置
- 二、村民讀本編纂
- 三、模範農家ノ設置
- 四、經濟更生計畫ノ趣旨普及
- 五、産業教育施設ノ進度目標

無盡ハ斷シテ新ニ之ヲ組織セサルモノトス  
 從來組織セル無盡ノ會合ニハ努メテ雜費ヲ省キ其經費豫算ハ現金分配ヲ行フコト  
 農村興隆ノ根本ハ農村青年教育ノ振興ニ在リ經濟更正計畫ノ達成モ亦青年ノ努力ニ俟ツモノ甚タ多キヲ以テ左記方法ニ依リ之カ目達ノ一助タラシメントス  
 各小學校ニ農業補習學校ヲ併設シ少クモ一人ノ專任教師ヲ配スルコト  
 村民讀本ヲ編纂シテ男女實業補習學校青年訓練所小學校高等科ノ教材トスルコト(正科又ハ科外)  
 模範農家ヲ設置シテ農事改善ノ實際ヲ教養スルコト  
 經濟更生計畫ヲ男女實業補習學校青年訓練所、小學校高等科生徒ニ科外講話スルコト

現況	昭和八年	九年	十年	十一年	十二年
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1
男子補習學校	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
村民讀本	1	1	1	1	1
村	1	1	1	1	1
模範農家	1	1	1	1	1
女子補習學校	1	1	1	1	1











計畫達成後ノ生産高豫想表

種別	生産												年次				
	主要農産																
	燕	麥	小	豆	蕎麥	苦	小	麥	燕	反作	價	收					
	反作	價	收	反作	價	收	反作	價	收	反作	價	收	反作	價	收	反作	昭和八年
	別付	格	量	別付	格	量	別付	格	量	別付	格	量	別付	格	量	別付	昭和九年
																	昭和十年
																	昭和十一年
																	昭和十二年

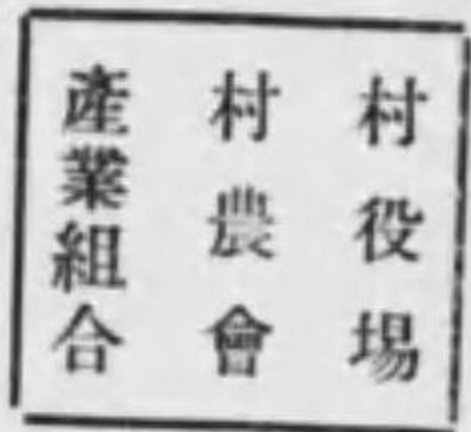
種別	畜産												年次			
	主要畜産物															
	乳牛	合	其	麥	燕	豆	大	黍	蜀	玉	麥	イ				
	價	計	他	價	收	反作	價	收	反作	價	收	反作	價	收	反作	昭和八年
	格	價	格	格	量	別付	格	量	別付	格	量	別付	格	量	別付	昭和九年
																昭和十年
																昭和十一年
																昭和十二年



農家一戸當生産高	産				
	總 生 産 額	小 家 畜		馬	
		價 格 合 計	見 積 額	價 格	産 卵 數
1,207	55,589	49,350	3,900	110,000	1,207
1,428	57,496	55,080	5,000	110,000	1,428
1,633	62,391	79,280	6,000	100,000	1,633
1,777	69,010	98,100	7,000	115,000	1,777
1,977	75,701	116,600	8,000	121,000	1,977

計畫達成上ノ諸施設

- 一、各種團體ノ實行決議  
 計畫ノ樹立完成ト共ニ村ノ行フヘキ事業ニ對シテハ村會ノ決議、農會、産業組合、農事實行組合ノ行フヘキ事業ニ對シテハ各總會ノ決議、其他團體ノ行フヘキ事業ニ對シテハ決議又ハ申合ヲ行ヒテ實行ニ邁進スルモノトス
- 二、機關ノ統一  
 各種ノ産業的、行政的機關ハ之ヲ統一シテ左ノ如キ組織トナスコト



- 三、民心ノ統一
  1. 民心統一ノ爲左ノ如キ會合ヲ催スモノトス
    1. 村民總會 (一名新篠津村更生大會)  
 毎年一回村民總會 (一ヶ所又ハ二ヶ所ニ) ヲ開キ計畫達成上ノ氣勢ヲ舉ケ且名士ノ講演ヲ聽ク
    2. 首長會議 (一名有志座談會)  
 毎年數回官公衛ノ首長村内一切ノ公共公益的團體首長ノ會合ヲ需メ計畫達成上ノ諸事項ニ關シ座談會ヲ開ク (首長ハ適宜顧問又ハ隨員ヲ伴フコトヲ得)
    3. 方面更生會  
 毎年一回各農事實行組合區域ニ方面更生會ヲ開キ村長、農會長、産業組合長、其他指導員之ニ參加シ計畫達成上ノ懇談ヲ爲ス
  - 四、委員會ノ開會  
 經濟更生計畫委員會ハ毎年一月例會ヲ開キ前年ノ實行成績ヲ檢討シ當年ノ實行方針ヲ評議決定スルコト (尙必要ニ應シ隨時之ヲ開ク)
  - 五、共勵會ノ開催  
 毎年村農會主催『村及産業組合』後授ヲ以テ農事實行組合成績共勵會ヲ開催ス



共勵會共勵事項ハ毎年經濟更生計画委員會ニ於テ之ヲ定ム但シ經濟更生計画ニ於テ特ニ推薦シア  
ル事項ハ必ス之ニ加フルモノトス

四〇

昭和八年九月三十日印刷  
昭和八年十月八日發行

著作兼 發行所 野村忠三郎

北海道庁府新藤村第四十七線北十二番地

印刷所 空知印刷所

印刷人 榎兼藏

北海道空知郡岩見澤町四條西五丁目



終

